

2015年度「地域文化に関するグループ研究助成」 研究助成報告書

研究テーマ： 近代日本における自立的地域文化創生事業の研究
—滋賀県長浜市江北図書館の事例に即して—

2016 年 9 月 1 日記入

研究代表者 富田光彦 印

1. 研究活動の実施状況

年/月	研 究 活 動
2015 / 8	「江北図書館文庫」研究会を設立 以下を協議・可決 1. 研究会のメンバー決定 2. 研究会の日程
2015 / 9 ↓	適宜開催する。 3. 研究会の方向性と当面の研究内容 (テーマが大きいため当面個別領域の研究に注力) ① 「江北図書館文庫」史資料の解題 ② 郡政研究(伊香郡役所資料:伊香郡役所の果たした歴史的役割) ③ 地域教育史の研究 ④ 地域における救恤機構、救恤活動の展開 (伊香相救社資料) ⑤ その他 伊香郡における地域経済史、文化史等 4. 「江北図書館文庫」史資料の公開について ① 史資料のデジタルライブラリー化 ② ホームページにサントリー文化財団助成研究助成研究のページを追加 ③ 一般閲覧・貸出等 ・閲覧は滋賀大学経済経営研究所内とする ・撮影・帯出等については利用規則を定める ④ 地元住民への還元 ・研究フォーラムの開催 ⑤ 研究成果の公開について ・ 研究報告書の作成 ・ 関連する研究誌に投稿等
2016 / 6	6. 以上を実行するため、2015年9月より2016年6月にかけて研究メンバーによる研究会や住民を対象とした報告会等を適宜開催した。 研究の進捗状況等は別紙「3. 研究概要」の通り

2. 特記事項(研究内容に大きな変更の生じた場合ご記入ください)

3. 研究概要: A4用紙に横書き・1枚程度の論考形式にて、研究の成果または進捗状況、研究で得られた知見、今後の課題についてご報告ください。この論考は、当財団WEBサイトに掲載します。文責は貴グループに負っていただきますので、個人情報等には十分ご注意ください。なお、文書内でのリンクは、原則的に禁止とさせていただきます。報告すべき研究成果で、WEBサイトに掲載できない内容がありましたら、別の用紙にてご報告をお願いします。

※掲載用の研究概要は、e-mailにて電子データもお送りください。

4. 研究に関わった主なメンバーのリストを添付ください。

5. 助成対象研究に関して発表された論文、書籍などの資料があればご送付ください。

3. 研究概要

(1) 研究が可能に至った経緯

公益財団法人江北図書館には和洋漢韓の図書のほか、伊香相救社資料や伊香郡役所資料など、全国的にも希少な地方資料を、ほぼ完全な形で所蔵しています。しかし、年間 230 万円程度の歳入で、耐火・耐震・防犯の備えのない木造モルタル作りの狭隘な建物の当館では、その安全な保管と有効な活用は不可能な状態にありました。何とか突破口を開こうと、2007 年に当館の設立 100 周年記念式典を開催したところ、それを契機に大手マスメディア各社によって当館は広く世に紹介されるようになりました。そして、2012 年に「第 44 回中日教育賞」を、2013 年に「第 35 回サントリー地域文化賞」を賜り、それらを原資として、所蔵史資料の整理・分類、目録の作成に着手することができました。さらに、2014 年には滋賀大学と当館の間で当館所蔵の史資料の「使用貸借契約」が締結され、滋賀大学において史資料の保管と活用が図られることになり、2015 年 6 月にはサントリー文化財団研究助成の交付が決定され、研究推進の環境が整いました。

(2) 研究対象・目的及び研究体制

サントリー地域文化賞・中日教育賞を原資として進めていた文書群の仮目録が、2015 年 6 月、研究助成決定と軌を一にして完成しました。そこで、今後の研究体制と研究内容を当館評議員の筒井滋賀大学経済経営研究所長と他数名の評議員及び理事長で検討し、以下を合意しました。

- i) 研究対象資料： 所蔵資料は、伊香郡役所文書、伊香相救社文書等 7 群、資料は簿冊も 1 点と数えて合計 2,196 点にのぼるため、研究は以下のようにする。
 - ① 資料の全貌を把握するため、資料の解題を作成する。
 - ② 全国的にも極めて珍しいとされる伊香郡役所文書と、わが国福祉事業の嚆矢とされる伊香相救社文書を対象とした研究を優先する。
- ii) 研究目的： 研究対象とする伊香郡役所文書及び伊香相救社文書とともに、明治・大正期の地方創生に極めて重要な役割を果たしてきた組織であるため、これらの文書検証を通じて現在における地方創生について何らかの示唆を得る。
- iii) 研究体制： 文書が広範・多岐にわたるため、原則共同研究とする。共同研究者は原則として江北図書館理事長と評議員数名、及び研究者として府県市町村誌等の編纂に関わった者が望ましいとし、資料の解読の進捗に合わせてその内容に応じて研究者の構成を見直すことを可とする。

(3) 研究の進捗状況

- i) 8 月 24 日研究会開催。共同研究者の合意を得て研究を開始。
- ii) 江竜美子滋賀大学助手・久岡道武琵琶湖疎水記念館学芸員、仮目録点検。久岡、解題及び文書関係の目録完成。研究会を開催、共同研究者の意識の共有化を図りました。
- iii) 8 月 24 日の研究会合意を、サントリー文化財団における中間報告「6. 今後の予定」に記載した、①「江北図書館が果たしてきた地域創生の歴史的意義を検証し、今後の文化的街づくりの推進し資す」、②「テーマを分担して各々研究を深める」、③「地元湖北地域において研究報告を行い、地域への公開と連携を図りつつ事業を展開してゆく」に変更しました。進捗状況②については、研究会を適宜行い検討を重ね、③は、「サントリー文化財団助成研究フォーラム」を開催し、研究成果の報告と塩見昇専日本図書館協会会長をパネラーの 1 人に迎えパネルディスカッションを行い、研究成果の地元への還元を行うなど、ほぼ予定通り進捗したと評価できます。しかし、本研究の最終目標としている①の研究には至りませんでした。
- iii) 当面の研究成果は別途『研究報告』及び HP に「サントリー文化財団助成研究」のページを追加して公開します。

(4) 研究で得た知見

明治・大正期の伊香郡民のアスピレーションの強さに強い感銘を受けました。これをいかに現代社会に反映させることができるか。大きな挑戦です。

(5) 今後の課題

資料内容が多岐につき、研究目的達成には、相当の覚悟が必要であるとの認識を新たにしています。

4. 研究に関わった主なメンバー

氏名	年齢	所属・職名	研究分野
三家 多賀成	79 歳	(公財)江北図書館評議員、 元京都市醍醐図書館	書誌学・教育史
河下 太勇	55 歳	(公財)江北図書館評議員、 滋賀県立虎姫高等学校教頭	図書館学
筒井正夫	61 歳	(公財)江北図書館評議員、 滋賀大学経済学部教授	近代日本地域経済・ 文化史
江竜美子	57 歳	滋賀大学経済学部助手 (経済経営研究所)	近代日本地域 文化史
渡辺幹夫	63 歳	和歌山大学教授、 和歌山大学付属図書館長	図書館学・ 地域文化史
橋本唯子	42 歳	和歌山大学特任准教授	近代日本地域社会・ 文化史
久岡道武	39 歳	琵琶湖疎水記念館学芸員、 神戸大学大学院博士課程修了	近代日本地域社会 経済史
亀井大樹	33 歳	大阪大学経済学部大学院博士後期課程	近代日本経営史・ 地域史
木全清博	68 歳	滋賀大学名誉教授	近代教育史
大月英雄	33 歳	滋賀県県政史料室学芸員	近代日本地域社会 経済史

5. 助成対象研究に関して発表された論文、書籍などの資料

- (1)久岡道武「引き継がれる江北図書館資料」
- (2)久岡道武「江北図書館文庫資料解題」
- (3)木全清博「明治期における伊香郡の小学校」
- (4)大月英雄「明治初期の備荒貯蓄と郡域結社 ―伊香西浅井郡相救社の設立―」
以上は、『2015 年度研究報告』に掲載。
- (5)久岡道武・江竜美子「江北図書館文庫目録」

http://mokuroku.biwako.shiga-u.ac.jp/kohoku_down.asp

以上